

令和4年度 学校評価(自己評価表) 米子北高等学校			
建学の精神	基本的生活習慣(躾)の育成をとおりて、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校 教育目標	【input】【thinking】【output】《reflection》 4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度 重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着
			2. 基本的生活習慣と規範意識の確立
			3. 新しい生活様式を踏まえた安全・安心な学校生活空間
			4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり
			5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連 分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価		関係者 評価	評価に対するコメント・改善方策
							中間	最終		
1. 主体的、継続的に 学びに向かう姿勢の 定着	教務	指導法の研究と評価法の検証 chromebookを活用した家庭学習法の 推進	これまでは予約制でICT設備がある教室を利用したり、可動式の大型テレビを利用して取り組んでいたが、今年度の1年生からは全教室プロジェクターとホワイトボードを設置していただき、取り組みやすくなった。	新学習指導要領に対応した学習評価方法の運用に向けて、各教科で小テストや課題しポート、班活動などの取り組み回数を増やしていく。	ICT設備と教科書の教授資料をしっかりと活用して説明時間をコンパクトにまとめ、生徒が活動できる時間を生み出すことが重要になる。また、授業に対する予習復習や振り返りの機会にChromebookを十分に活用して配信と回収を行っている。	今年度中にほとんどの教室へのホワイトボードとプロジェクターの設置が完了した。次年度からは移動教室をしながらも良い状況になったことは大きな進歩につながると考えられる。まだ十分ではないが、指導書の教授資料やChromebookを活用して授業や学習評価に取り組んでおられる先生方が増えてきている。	C	C	C	今年度からの新課程に合わせて各教科書会社が指導書に含まれる教授資料を充実させ、パワーポイントスライド、小テストなど、授業や学習評価に活用できるコンテンツの充実を図っている。我々はそれを上手く活用し、効率良(授業展開や評価を行うことが求められる。しかしながら、現実とは簡単なものではなく、制作者と我々現場の目線では多少のずれがあり、現状では加工をしないと即使える仕様にはなっていない。教材研究や教材準備を適宜行い、Chromebookを上手く活用する研修を繰り返しながら、効率を高めていく工夫が求められる。
	進学	進路保障を担う進路指導の充実	近年、専門学校・短期大学に進学する生徒の95%は総合型選抜(AO入試)と学校推薦型選抜を利用している。また、大学に進学する生徒の78%が同様の制度を利用している。これらの多くが特色入試を経験している。	進路実績に応じた試験対策を講じる必要がある。特に本校受験生の多くが利用する総合型選抜や学校推薦型選抜に合わせた対策を提供する。	各コースで1年次より、入試制度を理解したカリキュラムの導入が必要である。例えば、小論文対策、プレゼンテーション、ディベートや高校生活における活動計画、進学後の学修計画、志望理由など計画的かつ継続的な指導を行う。又、同時に本人の適性・適職似合った学習や分野を提供する。	生徒が望み入試形態に応じた指導を心がけた。総合型選抜や学校推薦型選抜では、小論文やプレゼンテーションといった表現力を問う出題が増加した。このような状況をふまえて、志望理由や小論文といった文章表現を磨くためのテキスト導入やプレゼン練習も行った。一定の結果を得ることはできたが、学力の保障ができたわけではない。	B	C	C	達成状況でも述べたが、新たな取り組みによる一定の評価はできる。しかし、国公立大学や難関私立大学への合格数を見ると必ずしも成功しているとは言えない。ここで求められる力は、文章力やプレゼンテーション力だけではなく、それに伴う学力である。では、学力で求められる力の基準は何か、2つある。1つは3年間の評定平均値、そしてもう1つは外部の検定試験である。特に英語の4技能を計った英検やGTECは上級学校からの支持が高い。1つでも欠ければ評価は下がる。今後、評定平均や外部の検定試験取得に向けた取り組みを具体的な目標に加えていきたい。
	就職		就職意識の高揚を図るためのセミナー実施と外部機関とを連携させ、最後まで粘り強い指導を行っている。	担任団と協力し、進路実現のために生徒自らが積極的に取り組むことができるようにする。	BLENDにて昨年度の職種別求人一覧を配信。興味関心のある企業調べを積極的に行うことで、採用内定を獲得させる。また、一般企業等の採用試験に向けた面接指導や採用試験練習など実践的プログラムを実施する。	就職希望生の3年生は1名を除き、就職内定をいただいた。コロナという先の見えない状況の中でも、3年生の就職に向けて就職指導部員一丸となり、担任団と協力しながら指導を行った。	B	B	B	生徒の進路意識を高めるための様々な実践・取り組みを行った1年であった。1年次の職業ガイダンスを早め、10月には2日間のインターシップ。2年次はセミナーを通して、各種採用試験の取り組み・面接練習・3月SKY講座での「職場体験」、3年次には面接指導を実施。来年度より2年生は探究としての位置づけとなるセミナーで、さらに職業観を高めさせたい。
	情報	BLEND機能の積極的活用と chromebook利用の教員研修	現状は、BLENDを出欠確認等のみで利用している。今年度から1年生と教職員にchromebookが配布された。現状として授業やその他学習活動での活用は多くない。	ICT機器の活用方法の推進を行っていく。教職員への研修を月に1回行っていく。生徒がより主体的に学んで行くような取り組みを実施していく。そのための研修を行い	ICT機器の活用方法の教職員を実施する。Googleワークスペースを最大限に活用した教育活動を行えるようにした。リモート授業の活用だけでなく、生徒の自主学習が活発になるような取り組みを実施していく。そのための研修を行い	Googleワークスペースとchromebookを活用した授業展開は実施の開始している。個々により実施内容に差がある事を今後解消したい。リモート授業の実施に向けて研修を行った。今後は計画オンライン授業を実施したい。	C	B	B	段階的にリモート授業を複数回実施した。Chromebookを利用して行い、大きな問題もなく実施できたと感じている。しかし平常授業でのchromebookの活用に関しては、十分ではなかった。来年度は平常授業から活かせるように、研修を重ねて実施したい。来年度は1年生、2年生と2学年がchromebookを持つようになる。学年を越えた活用ができるように働きかけたい。
2. 基本的生活習慣 と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	今年度からは出席簿を廃止し、BLENDの入力により出欠を管理することになった。昨年までは入力するものが二重になっていたが、今年度からはしっかりとBLENDへの入力漏れがないようにしてもらいたい。	担任・学年部長・授業担当者で連携を図り、BLENDにおける出欠の管理の流れを徹底し、生徒指導に活かすことが重要である。	今までは学年部長が終礼後に出席簿を点検して欠席者数等の記録をとっていたが、今年度からはBLENDの入力が全クラス完了しているかを放課後に点検してもらう役割をお願いし、未入力箇所があれば担任への連絡をするようにしている。	学年によって部長と担任の連携に多少の差があるように見受けられる部分はあったが、新型コロナウイルスの影響による出校停止が多い中、学年団で協力し合いながら、出欠管理をして頂いた。	B	B	B	今年度の1年生からは教務内規が改定になり、出欠についての管理がしやすくなっている。2年後にはなるが、これが全学年統一になれば、BLENDの入力のみで出席の統計が可能になり、先生方の生徒指導がかなり軽減されると予想される。BLENDの未入力チェック機能を上手く活用し、学年部長の先生方に1ヶ月単位での未入力確認を次年度からお願いできればと考えている。
	生徒指導	校外外で社会的規範意識の確立	SNSによる生徒同士のトラブル。通学時の自転車等のマナーや、近隣施設でのマナーの改善。	人間関係によるトラブルまたはマナーについては、人の気持ちを考えての行動や発言をさせる。生徒が主体的に意識されるよう意識さ	4月当初に「ネットモラル教室」においてネット被害や犯罪について考えさせる。SNSにおけるトラブル等についても生徒に訴えかけ指導していく。「交通安全教室」などにより自転車マナーの向上をはかる。	今年度から「ネットモラル教室」を1年生と2年生対象として2回に分けて実施をした。特にトラブルが起りやすい年代として行なったが、まだまだ問題はおこりつつあるため継続的な指導が必要である。自転車のマナーについては朝礼時に担任の先生方よりお願いし、指導をして頂いたが、自転車の事故等(報告6件)はなかなか減らない。	B	B	B	薬物乱用防止教室・ネットモラル教室・交通安全教室と講演を聴く場合は、設け考えさせることはさせているが、なかなか事故やSNSの問題はなくなる。講演後にもう少し探求する、自分のこととして考えさせる時間にも必要かもしれない。また、指導部からの発信もより積極的に行い、コロナの収束後は委員会活動を活発にさせることもしたい。生徒自身がより自分のこととして考えられるように発信していきたい。今回、他からの情報より生徒を指導する機会が何度かあった。指導部側より、もう少し情報収集も実施して生徒指導に役立たせていくことも大切であると感じた。
	生徒支援	自尊感情の育成・人権を意識した他者理解	生活アンケートやHyper—QUIによる面談、教育相談から生徒の経過観察、働きかけを行っている。	自分も他人も大切に考え、安心できる学校生活を送ることができる。	生活アンケート内容の吟味、Hyper—QU実施とその結果への早期対応、関係委員会での迅速な対応を行う。また職員研修を行うとともに、人権啓発ポスターの掲示も積極的に行う。	具体方策で掲げたものは概ね実施したが、Hyper—QU実施後の生徒面談はまだやり残しがある。年度最後の生活アンケートは1年生は今回、タブレットではなく紙ベースで行った。	C	B	B	Hyper—QU実施後の生徒面談は、一部、早期対応が思うようにできず、かなり遅れてからの対応になった。前回の生活アンケート実施で、回答提出率の低下と回答確認のしづらさが反省としてあったため、紙ベースに戻してアンケートを実施した。回収結果はまだ出ていないが、生徒の手書きの文字からも、生徒の精神状態等の細部も把握、把握できることで、紙ベースでの実施のほうが有効であろうと感じた。
3. 新しい生活様式を 踏まえた安全・安心な 学校生活空間	環境美化	SDGsの理解と実践	ゴミの分別や、教室を含め校内外の美化に務め、意識を高めている。また、手洗いなど健康面での実践を行っている。	環境・健康やエネルギー問題など、身近なことを実践できるようにする。また、物を大切に使用し、公共の場の美化に努める行動がとれるようになる。	ポスターの作成など啓発活動を通し、ゴミの分別や、ゴミを減らしたり、節電や手洗い励行など、環境を考えた行動や健康やエネルギー問題を意識した行動がとれるようになる。	啓発活動に関しては、担任の先生方を通じてゴミの分別についての掲示をお願いしているため、分別についてはよくなっていると思う。環境やエネルギー問題を考えて行動についてはもう少し意識が必要である。	C	B	B	節電や節水など身近な取り組みが環境に影響すること、ポスターなどを使った啓発活動を行う予定であったが、実施できなかった。こうした取り組みは年度当初やエアコン開始時期に実施した方がより浸透すると思う。手洗いのなどの場面では多くの生徒がハンドソープを使用していて衛生や健康を考えた行動がとれていると思う。また、トイレの老朽化の影響で、和式トイレのペダルの不備により水が流れっぱなしになったり、使用不可のトイレもある。手洗いが非常に少ない箇所もあり、一カ所の洗面台に手洗いや歯磨きの生徒が集まっ
	事務	施設の整備・点検	エアコンの老朽化、教室証明器具が白熱電球が大半を占めている。	・順次エアコン機器更新・教室照明器具のLED化	・故障頻度、優先度を考え機器更新(予算化) ・2年生教室のLED化(予算化)	エアコン機器更新については、残念ながら実施できず。しかしながら、来年度に向け、補助金獲得での更新予定。2年生教室のLED化(2階9教室)は実施済。来年度も実施予定(3階他予定)	B	B	B	エアコンについては、機器更新ができなかったため、教室移動等の対応をしていたが迷惑をおかけしました。積極的な果担当課への働きかけにより、来年度に補助金を予算化できたことは大きな一歩となった。LED化については、年次計画通り進めることができた。別件ではあるが、年度末ぎりぎりになりましたが、10教室のホワイトボード化、プロジェクター設置も補助金活用で実施することができた。こちらも残り教室について、来年度以降で対応していきたい。
	教頭	コロナ禍での生活において 感染予防への意識の確立	熟食やこまめな消毒等、新たな感染拡大防止の意識、行動がなかなか根付かない。また、土日の健康観察では実施率が低水準留まりの現状。	熟食の巡回指導や見守り指導の体制強化、健康報告入力チェック、欠席状況の早期確認	昼食時の巡回、食堂の見守り指導の徹底。BLENDでの健康報告入力へのチェック及び指導の体制を学年単位で構築。	各教室、会館における生徒の熟食は、1学期に比べて改善が見受けられた。ただし、BLENDの健康観察の徹底については、クラス及び部活動でその徹底に差があるので、今後一層徹底強化したい。	B	B	B	サーキュレーターへの各教室設置案は、適正な設置位置を検討した際に電源確保や設置工事など、時間や設備費用が上乗せとなることから導入を断念することした。寒い時期の換気徹底は、困難ではあるが、授業担当の協力を得て、常時換気に加えて休憩時間または、授業開始10分程度の換気を行った。また、換気が徹底するよう毎休時間中に放送をした。2月20日には政府から新たな新型コロナウイルス感染症に対する方針が出され、卒業式でのマスク着脱について周知徹底を図った。
	総務	情報発信の強化・保護者との連携	新型コロナウイルス感染症の影響が続くと、昨年の感染対策の取り組みを参考にしつつ、生徒募集関係の行事の企画立案を進めている。教育振興会活動においても評議員の方に協力いただき、活性化を目指して各種行事の計画	情報発信の仕方を工夫するとともに、保護者参加の活動機会を増やすことで、広く本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	ホームページやBLEND、マチコミメールを利用し積極的に情報発信を行う。中学校対象の各種説明会などを充実させ、本校教育について広くアピールする。また、機関誌「北振」の発行、登校視察、講演会等の振興会活動を通して保護者との連携を強化する。	教育振興会の活動として、生徒指導部は登校視察を2回実施。文化部は「北振133・134・135号」を発行した。人権部は初の試みとして人権映画鑑賞会を実施した。企画体育部はすべての行事が中止となった。生徒募集関連では中学校対象入試説明会、塾対象説明会、学校説明会、個別相談会などすべてを予定通り実施した。高校説明会も、西部地区の中学校27校で実施することができた。	B	B	B	本年度も新型コロナウイルスの感染拡大状況に合わせて、行事の実施・不実施の判断や日程・方法の検討が求められる1年であった。そのような中で、生徒募集関連行事として、入試説明会や相談会等の対外的な行事がすべて実施できたことは幸いであった。教育振興会の活動については朝鑑会等の交流行事はほとんど実施できなかったが、登校視察や「北振」の発行を通して学校や生徒の様子を保護者に伝えることができた。また人権部による映画鑑賞会といった新しい企画も実施され、次年度につながる意義のある活動ができた。今後もホームページやBLENDなどを活用した情報発信及び、本校の教育活動を広くアピールするための各種行事を企画・実行していきたい。
4. 地域に信頼される 教育・地域の人が自 慢できる学校づくり	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われているが、感染予防の観点から以前ほどは実施されていない。	地域からの活動依頼に積極的に応えと共に、本校発案の活動に取り組んでいく。	地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的にやっていく。	生徒会が中心となり校外美化活動を実施したが、数年ぶりの実施で以前の状況が分からないため、参加者が非常に少なかった。	B	B	B	少しずつ今までの行事や活動が再開されたが、3年のブランクがあり以前のような参加者や盛り上がりには欠けた。今年度は校外美化活動を実施したが、残念ながら生徒会の生徒がメインで部活動単位での参加者や一般生徒の参加が少なかった。同様に皆生トリアスロンのボランティアも参加者が以前の半数ぐらいいになり、行事の継続の重要性を感じた。来年度以降は様々な行事に取り組み活動を継続させていきたい。
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	門前指導により、挨拶励行や交通マナー改善、服装指導を実施しているが、特に自転車マナーには改善が必要である。	交通ルールを厳守し、日頃より事故のないように心がけさせる。地域の方々や周りの人への挨拶を積極的に行うようにしていく。	先生方のご協力により、毎朝の門前指導(挨拶・交通マナー・服装指導)を実施し生徒の規範意識を向上させる。年間二回のマナーアップさわやか運動により生徒会又は地域の協力も得て、生徒自身が主体的に行動できるようにする。クラスでも担任発信で行うようにしていく。	コロナ禍のためマナーアップさわやか運動も学校単位での実施となり、本校も生徒・地域の方なしで教員のみで門前指導を実施した。日頃より先生方に門前指導を指導して頂いていることもあり、通学路での大きな問題もなかったが、自転車のマナーについては何度か地域より指摘を頂いた。大きな事故にならないよう生徒への発信、担任からの指導を今後もお願いし続ける必要がある。	C	C	C	挨拶については部活動生徒を中心として校内でハキハキとした挨拶が行われると思われる。地域の方と話す機会もあり、その時には「北高生は挨拶してくれますよ」ということも耳に入り、そのような行動をしている生徒がいるのは喜ばしく思う。教員側からも生徒に積極的に挨拶を交わし学園全体をそのような雰囲気にする 것도大切か感じている。交通安全マナーなどはまだまだ改善の必要があり、全体での指導もしていきたい。服装指導については年間7回の検査の実施と、日頃からの担任による指導、また朝礼時の抜き打ち検査も実施したが、徹底は出来ていない。
	看護	医療・福祉機関との連携	コロナ感染新規感染多数の状況下では、家族内での感染や濃厚接触者となるケースが多く、指導を徹底しても防ぎきれない状況があった。専攻科1年生については3日しか行けなかったり、病院の都合により行けない施設もあり、学内実習で対応した。	教員・生徒共に感染予防対策を十分にを行い、臨地実習が行えるよう実習施設と連携を図る。 看護師国家試験 全員合格をめざす。	①健康観察記録の徹底、正しいマスク着用・手指消毒・手洗い、体調不良時の対応について細やかな指導(知識・技術)の定着を図る ②実習施設との連携、打ち合わせ、連絡・相談を密に行う ③朝の小テストや模試後の学習会の有効活用について指導する。	①コロナの感染状況により、臨地での実習がありまできない状況もある。感染予防対策は指導しているが防ぎきれない状況も多い。②実習施設との打ち合わせや相談、契約書の提出など遅れた学年がある。それをより実習施設に迷惑をおかすこととなった。③学習の定着については個人差が大きい。	C	C	C	しっかりと指導することや教員が確実に行うことで改善できる面と困難な場合とがあり、原因を精査した上で目標設定や具体策について検討していきたい。先生方一人一人がひとことではなく、自分のこととして自覚し責任を持って取り組みよう願いたい。教員・生徒全員の力で看護師国家試験全員合格を達成できるように指導や適切な評価についても検討していきたい。
	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	今年度から1年生は、新教育課程での展開となり、毎週各コース1単位の探究学習に取り組む。2、3年生は現行の教育課程による探究学習を維持展開する。	各学年でコースの特徴を活かした指導案に従って取り組む中で、協働して取り組む姿勢やアウトプット力を身につけること等を目標とす	カリキュラムの枠にとらわれず、地域を元気にするイベントに取り組む。コロナ禍においても感染対策を徹底し、地域に開かれた学校祭を企画したい。	地域との連携としては、職業ガイダンスの学びを1学期に実施、2学期は職業体験に展開する。コロナ禍を踏まえ、オンラインでの参加も検討したい。学校祭では、登校・参加できない生徒や保護者にオンライン配信を試みた。	C	B	B	2学期後半及び3学期中盤の探究学習推進委員会で、探究学習のまとめとしてSKY講座の具体案を示す事ができた。最終発表までに各コースの探究目標に沿った報告を聴きたいところである。今年度は、中間発表やミニ発表を3月の段階で発表した。今後学年またはコースを分けての発表も視野に計画していきたい。

評価基準 A:十分に達成している B:概ね達成している C: 取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない D:より一層のまたは新たな方策が必要である